

# 住宅や店舗のリフォーム・改修をメインに、若い力で幅広いニーズに応える建築会社

長年にわたって個人事業として実績を蓄積し、2021年に法人成りした『タイガーテックルーフ』。住宅や店舗のリフォームをメインに屋根工事をはじめ、造作工事や防水工事、解体工事、塗装工事、板金工事などを広く手掛けている。牧野社長は16歳で建築業界に入り、21歳の若さで独立。厳しい状況乗り越えながら基盤を確立してきたという。そんな社長のもとを本日は俳優の小倉一郎氏が訪問。インタビューを行った。



代表取締役  
牧野 勇太

## 株式会社 タイガーテックルーフ

東京都福生市福生 2337-1 グレースハイム 103

## Tigress

東京都福生市福生 880-231 号室

—まず始めに、牧野社長の歩みからお聞かせいただけますか。

隣接する東京都・拜島町出身で、小中学生のころはずっと野球をやっていました。高校を中退してからは、おじが営む建築会社で働くように。縦社会が厳しい業界ですし、身内ということもあって、きつい指導に耐える毎日でした。当時は怒られて腹が立ったこともありましたが、今となると技術だけでなく礼儀など社会人として大切なことを教えていただいたと感謝しています。その後、一度おじの下を離れ、水商売をしていた時期もありました。そこで出会った妻との間に子どもができ、結婚したのが19歳の時。家族の生活を支えていく立場になり、もう一度おじのところに戻ったんです。

—おじ様も受け入れてくれて？

はい。懐の深い人で、随分と可愛がっていただきました。いずれは私に会社を引き継いでほしいとも言われていたのですが、おじには私より2歳下の息子さんもいますし、私は敷かれたレールの上を進むのが嫌だったんです。自分で道を切り拓いて、おじを超えたいと思っていた

ので、会社を継ぐつもりはありませんでした。今思えばとても贅沢な話なんですけれどね（笑）。ただ、そうした決意が個人で事業を立ち上げるきっかけにもなり、21歳で独立を決めました。

—技術力も経験も重視される業界でしょう。まだお若いうちから、思い切った決断をされましたね！ 立ち上げ当初はいかがでしたか。

一人親方として始めましたが、最初は道具もない、仕事もない状態で、ようやく下請けで使ってもらえるようになって、雇われていた時よりも低い賃金で厳しい状況でした。それでも、おじのところ取引のあった会社に営業に行くのは筋違いだと思い、とにかく新規開拓に努めました。

—義理堅いんですね。そういった状況は長く続いたのでしょうか。

はい。7～8年はなかなか厳しくて、廃業してサラリーマンに戻るしかないのかと思ってトラックドライバーの面接を受けに行ったこともあるんですよ。ただこれまでの努力を振り返ってみて、「まだ頑張れる」と思い、踏み留まりました

がね。当時はまだ子どもが幼かったですし、うちは3人年子なんです。妻には苦勞をかけましたが、それでも私を信じ、「やりたいようにやればいい」と背中を押してくれたので気持ちに伝えるためにも頑張ろうと思えました。そこから徐々に仕事が増え、30歳になる少し前にはちょっと流れが変わり、余裕も出てきました。

—行動力もさることながら、決めたことをやり遂げる強い責任感が社長にはおありなのでしょう。現在はどんなお仕事をメインにされているのですか。

住宅や店舗のリフォームが中心です。造作工事や防水工事、解体工事、塗装工事、板金工事など幅広く手掛けていますが、一番多いのは屋根工事ですね。知り合いの紹介などもあり少しずつ取引先も増えて、ようやく安定してきました。20代で苦勞した経験がここにきて実を結んだのだと。ご縁にも感謝する毎日です。

—継続は力ですね。お仕事をされる上で、最も大事にされていることは何でしょうか。

やはり「人」ですね。昨年、法人成り

## 企業として前向きに進進

▼21歳で独立し、個人事業として歴史を重ねてきた『タイガーテックルーフ』。2021年1月に法人化し、新たなスタートを切ったばかりだ。「個人から法人になり、考え方が大きく変わった」と牧野社長。「共に働く仲間のためにも、企業として信用をさらに築いていきたいと思っていますし、上に立つ者としての責任も感じています。また、視野も大きく広がりましたね。プレッシャーもありますが、攻めるしかありません」と、これまで以上に前向きに歩んでいく考えだという。

▼現在は建築業だけでなく、飲食店も営んでいるという社長。その前向きな姿勢、バイタリティの源はどこにあるのか。「日々、自分自身を俯瞰して見ているようにしています。そして、今は目標の途中経過にあり、必ず目指すところに到達する



ということを信じている」とのこと。だからこそ、新たなチャレンジができ、前に進む力を得られるのだろう。



▲『タイガーテックルーフ』牧野社長が手掛けている飲食店『Tigress』

したきっかけも「人」なんです。高校の同級生も個人で事業をやっている、お互いに連携を図りながら仕事をしていたんですね。予てより、事業を大きくするには自分と同じ目線の人間がいたほうが良いと思っていたので、法人化して彼を役員として迎えることにしたのです。現在は従業員も増えて、私を含めて5名になりました。私は38歳で、従業員も30代が中心です。若い社員が多いですが、皆経験もあり、責任感も強いので非常に心強いですね。

—お若い人が揃っているということで、将来も楽しみです。社長は長く建築業界に腰を据えられてきたようですが、その中で異業種に挑戦してみたいというお気持ちはなかったのですか。

実は以前、共同でバーを経営していたんです。30歳の時、仕事も軌道に乗ったので、何か別の分野にチャレンジしてみたいと思ったことがきっかけでした。水商売をしていた経験もあり、いつか自分の店を持ちたいと考えていたんです。事情があって昨年、そちらの店は畳んでしまったのですが、会社を法人化し

たことで余裕も生まれ、またやりたいという思いが芽生えてきました。そこで、たまたまご縁があって同年10月に『Tigress』という名前の店をオープンしたんです。新築の建物ができたばかりで、良いタイミングでお声掛けいただいたのです。

—苦勞した期間も長かったと思いますが社長にとって今、良い流れができているのかもしれない。お話しも尽きませんが、最後に5年後、10年後の展望をお聞かせください。

経営者として会社を成長させたいという思いはありますが、そうした中でも一つひとつの仕事と丁寧に向き合う姿勢は大切にしたいと思っています。苦勞はありましたが、それでも諦めずにやってこられたのは家族や周囲の支え、繋がりがあったからこそです。今後事業の規模が拡大し、売上が上がったとしても決して驕らず、人や環境に感謝する気持ちを忘れずにいたいですね。

—本日はありがとうございました。（2022年4月取材）

## 小倉 一郎（タレント）

「法人にして税金や出費が増え、大変になったというお声もよく聞きますが、牧野社長の場合は従業員さんのためにも、法人にして良かったとおっしゃっていました。個人の時よりも信用が付きますし、お仕事の幅も今以上に広がっていくことと思います。どんなに規模が大きくなってプレッシャーに感じたいとのこと。社長ならきっと大丈夫だと感じました！ 今後もぜひ頑張ってくださいね」 小倉 一郎 談

